



Solaris™ Security Toolkit 4.2 マニュアルページガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-3794-10
2005 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独断的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、JumpStart は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Solaris Security Toolkit 4.2 Man Page Guide
	Part No: 819-1505-10
	Revision A



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

Intro	1
add-client	3
audit_public_funcs	7
common_log_funcs	11
common_misc_funcs	15
driver_public_funcs	17
jass-check-sum	21
jass-execute	23
make-jass-pkg	29
rm-client	33
security_drivers	35

形式	<p>コマンドや関数の構文が示されています。標準パスにコマンドやファイルが存在しない場合は、フルパス名が示されます。オプションと引数の順番は、アルファベット順です。特別な指定が必要な場合を除いて、1文字の引数、引数のついたオプションの順に書かれています。</p> <p>このセクションでは、次の特殊文字が使用されています。</p> <p>[] かっこ。このかっこに囲まれたオプションや引数は省略できます。このかっこが付いていない場合には、引数を必ず指定する必要があります。</p> <p>... 省略符号。前の引数に変数を付けたり、引数を複数指定したりできることを意味します (例: filename...)</p> <p> 区切り文字 (セパレータ)。この文字で分割されている引数のうち、一度に1つだけを指定できます。</p> <p>{ } 大かっこ。この大かっこに囲まれた複数のオプションや引数は省略できます。かっこ内は1組として扱います。</p>
説明	コマンドの実行内容を簡潔に定義します。
拡張機能説明	コマンドの実行内容をより詳細に説明します。(存在する場合は) 必要なグループ権限を示します。
コマンド一覧	サポートされているコマンド、関数、およびドライバを示します。
オプション	各オプションがどのように実行されるかを示します。オプションは「形式」で示されている順に記載されています。オプションの引数はこの項目で説明され、必要な場合はデフォルト値を示します。
使用例	コマンドや関数の使用例や使用方法を説明しています。できるだけ、実際に入力するコマンド行とスクリーンに表示される内容を例にしています。例の中には必ず、example% のプロンプトが出てきます。スーパーユーザーの場合は example# のプロンプトになります。
終了ステータス	コマンドが呼び出しプログラムまたはシェルに戻す値と、その状態を説明しています。通常、正常終了には0が返され、0以外の値はそれぞれのエラーステータスを示します。

ファイル	マニュアルページが参照するファイル、関連ファイル、およびコマンドが作成または必要とするファイルをすべて示し、各ファイルについて簡単に説明しています。
属性	属性タイプとその対応する値を定義することにより、コマンド、ユーティリティー、およびデバイスドライバの特性を示しています。詳細は、 <code>attributes(5)</code> を参照してください。
関連項目	その他の Solaris Security Toolkit のマニュアルページへの参照が示されています。

名前	Intro - Solaris Security Toolkit の管理を紹介します。																
形式	Intro																
説明	<p>Solaris Security Toolkit (JASS (JumpStart Architecture and Security Scripts) と呼ばれる) で使用できるコマンドについて説明します。</p> <p>Sun では、Solaris Security Toolkit ソフトウェアを Solaris 8、9、および 10 オペレーティングシステムで使用する場合にのみサポートを提供しています。Solaris Security Toolkit ソフトウェアは Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、および Solaris 7 オペレーティングシステムで使用することもできますが、これらのオペレーティングシステムで使用する場合、Sun ではサポートを提供していません。</p> <p>Solaris Security Toolkit ソフトウェアは、インストールされている Solaris オペレーティングシステムのバージョンを自動的に検出し、そのバージョンに合わせて適切なタスクを実行します。</p>																
コマンド一覧	<p>Solaris Security Toolkit 4.2 ソフトウェアでは、次のコマンド、関数、およびドライバがサポートされています。</p> <table border="0"> <tr> <td>Intro</td> <td>Solaris Security Toolkit のコマンド、関数、およびドライバの一覧を示します。</td> </tr> <tr> <td>add-client</td> <td>Solaris Security Toolkit がインストールされている JumpStart™ サーバーへの JumpStart クライアントの追加を容易にします。add-client は add_install_client スクリプトのラッパーです。</td> </tr> <tr> <td>audit_public_funcs</td> <td>audit_public.funcs ファイルにある Solaris Security Toolkit のすべてのパブリック監査関数の一覧を示します。</td> </tr> <tr> <td>common_log_funcs</td> <td>Solaris Security Toolkit のすべてのログ関数とレポート関数を制御する common_log.funcs ファイル内のすべての共通ログ関数の一覧を示します。</td> </tr> <tr> <td>common_misc_funcs</td> <td>common_misc.funcs ファイル内のさまざまなフレームワークの Solaris Security Toolkit 関数の一覧を表示します。</td> </tr> <tr> <td>driver_public_funcs</td> <td>driver_public.funcs ファイル内の Solaris Security Toolkit ドライバのすべてのパブリック関数の一覧を表示します。</td> </tr> <tr> <td>jass-check-sum</td> <td>チェックサムを使用することで、最後の Security Toolkit セキュリティ強化以降に加えられたファイルの変更を特定します。</td> </tr> <tr> <td>jass-execute</td> <td>Solaris Security Toolkit ソフトウェアの機能の大部分を実行します。</td> </tr> </table>	Intro	Solaris Security Toolkit のコマンド、関数、およびドライバの一覧を示します。	add-client	Solaris Security Toolkit がインストールされている JumpStart™ サーバーへの JumpStart クライアントの追加を容易にします。add-client は add_install_client スクリプトのラッパーです。	audit_public_funcs	audit_public.funcs ファイルにある Solaris Security Toolkit のすべてのパブリック監査関数の一覧を示します。	common_log_funcs	Solaris Security Toolkit のすべてのログ関数とレポート関数を制御する common_log.funcs ファイル内のすべての共通ログ関数の一覧を示します。	common_misc_funcs	common_misc.funcs ファイル内のさまざまなフレームワークの Solaris Security Toolkit 関数の一覧を表示します。	driver_public_funcs	driver_public.funcs ファイル内の Solaris Security Toolkit ドライバのすべてのパブリック関数の一覧を表示します。	jass-check-sum	チェックサムを使用することで、最後の Security Toolkit セキュリティ強化以降に加えられたファイルの変更を特定します。	jass-execute	Solaris Security Toolkit ソフトウェアの機能の大部分を実行します。
Intro	Solaris Security Toolkit のコマンド、関数、およびドライバの一覧を示します。																
add-client	Solaris Security Toolkit がインストールされている JumpStart™ サーバーへの JumpStart クライアントの追加を容易にします。add-client は add_install_client スクリプトのラッパーです。																
audit_public_funcs	audit_public.funcs ファイルにある Solaris Security Toolkit のすべてのパブリック監査関数の一覧を示します。																
common_log_funcs	Solaris Security Toolkit のすべてのログ関数とレポート関数を制御する common_log.funcs ファイル内のすべての共通ログ関数の一覧を示します。																
common_misc_funcs	common_misc.funcs ファイル内のさまざまなフレームワークの Solaris Security Toolkit 関数の一覧を表示します。																
driver_public_funcs	driver_public.funcs ファイル内の Solaris Security Toolkit ドライバのすべてのパブリック関数の一覧を表示します。																
jass-check-sum	チェックサムを使用することで、最後の Security Toolkit セキュリティ強化以降に加えられたファイルの変更を特定します。																
jass-execute	Solaris Security Toolkit ソフトウェアの機能の大部分を実行します。																

<code>make-jass-pkg</code>	システムにインストールされているカスタマイズされたバージョンからカスタマイズされた Solaris Security Toolkit パッケージを作成できるようにします。
<code>rm-client</code>	Solaris Security Toolkit がインストールされている JumpStart サーバーからの JumpStart クライアントの削除を容易にします。rm-client は <code>rm_install_client</code> スクリプトのラッパーです。
<code>security_drivers</code>	Drivers ディレクトリの <code>security.drivers</code> ファイルにあるすべての Solaris Security Toolkit ドライバの一覧を表示します。

名前	add-client - Solaris Security Toolkit の JumpStart クライアントをインストールします。
形式	add-client -c <i>client-host-name</i> [-i <i>install-server</i>] [-m <i>client-mach-class</i>] [-o <i>solaris-os-instance</i>] [-s <i>sysidcfg-dir</i>] add-client -? -h add-client -v
説明	add-client は add_install_client スクリプトのラッパーで、このスクリプトを使うと Solaris Security Toolkit がインストールされている JumpStart サーバーへの JumpStart クライアントの追加が簡単になります。このコマンドは、Solaris Security Toolkit 配布パッケージの bin ディレクトリにあります。
拡張機能説明	SPARC ベースのシステムの場合、add-client コマンドは、JumpStart クライアントと Solaris Security Toolkit で必要な構成情報をインストールします。このコマンドは JumpStart サーバーから実行されます。 Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) クライアントを使用する x86 システムの場合、Solaris (インストール) メディアに付属する add_install_client スクリプトを使用する必要があります。これは、クライアントに必要な JumpStart 構成の実行など、add-client スクリプトに含まれていない高度な JumpStart 機能を使用する必要がある JumpStart 構成にも当てはまります。
必要なグループ特権	このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。
オプション	次のオプションがサポートされています。 -c <i>client-host-name</i> インストールする JumpStart クライアントの名前を指定します。 -h -? 使用方法を表示します。 単一で使用します。-h または -? に追加で指定されたオプションは無視されます。 -i <i>install-server</i> JumpStart インストールサーバーの名前を指定します。値を指定しないと、使用可能なオプションのリストが表示されます。システムのネットワークインタフェースが 1 つだけの場合は、デフォルトでそのインタフェースが使用されます。 -m <i>client-mach-class</i> JumpStart クライアントのマシークラスを指定します。この値は、uname -n コマンドの出力と同じ形式でなければなりません。指定されていない場合は、デフォルトの sun4u が使用されます。

- o *solaris-os-instance* クライアントにインストールする Solaris オペレーティングシステムのバージョンを指定します。値を指定しないと、使用可能なオプションのリストが表示されます。使用可能なインスタンスが 1 つだけの場合は、デフォルトでそのインスタンスが使用されます。
- s *sysidcfg-dir* システムの識別および構成 (*sysidcfg*) ファイルを格納する代替ディレクトリへのパス名を指定します。デフォルトでは、この値は `JASS_HOME/Sysidcfg/Solaris-ver/` ディレクトリに設定されます。このオプションを使用する場合は、`JASS_HOME/Sysidcfg` ディレクトリへの相対パス名を指定する必要があります。たとえば、`JASS_HOME/Sysidcfg/Hosts/alpha` というディレクトリが存在し、そこに *sysidcfg* ファイルを含める場合は、`Hosts/alpha` を指定します。
- v このプログラムのバージョン情報を表示します。

使用例

例 1 デフォルト設定を使用したシステムへのクライアントの追加

```
sc0: #:> /opt/SUNWjass/bin/add-client -c eng1 -m sun4u
Selecting default operating system, Solaris_ver.
Selecting default system interface, IP_address.
cleaning up preexisting install client "eng1"
removing eng1 from bootparams
updating /etc/bootparams
sc0: #:>
```

オプションを以下に示します。

Solaris_ver JASS_HOME_DIR/OS にインストールされている Solaris OS のバージョンのみ。

IP_address コマンドが実行されたシステムのネットワークインタフェースのみ。ピリオドで区切った 4 組の数値で記述されます (たとえば、172.16.0.59)。

eng1 JumpStart クライアントのホスト名です。

例 2 オプションをすべて使用したシステムへのクライアントの追加

```
sc0: #:> /opt/SUNWjass/bin/add-client -c eng1 -i jumpserve1 -m
sun4u -o Solaris_9_2003-12 -s Hosts/alpha
cleaning up preexisting install client "eng1"
removing eng1 from bootparams
updating /etc/bootparams
sc0: #:>
```

オプションを以下に示します。

eng1 **JumpStart** クライアントのホスト名です。

jumpserve1 **JumpStart** クライアントのインストールに使用される **sc0** 上のローカルインタフェースの名前。

終了ステータス

次の終了値が返されます。

0 正常終了。

1 エラーが発生しました。

属性

次の属性の説明については、**attributes** (5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Interface Stability	Unstable

関連項目

jass-check-sum (1M)

jass-execute (1M)

make-jass-pkg (1M)

rm-client (1M)



名前	audit_public_funcs - audit_public.funcs ファイルにあるすべてのパブリック監査関数の一覧を表示します。
形式	audit_public_funcs
説明	<p>監査スクリプトで使用されるすべての監査関数は、Drivers ディレクトリの audit_public.funcs ファイルに格納されています。このファイルで定義されている関数はパブリックなので、標準およびカスタムの監査スクリプトのどちらでも自由に使用できます。多くの場合、このファイルで定義されている関数は、audit_private.funcs ファイルで定義されている関数を呼び出すスタブです。今後のリリースでの元のコードの変更や拡張について知らなくても、ユーザーがこれらのスクリプトをパブリックインタフェースにコーディングできるように、これらのスタブが実装されています。</p> <p>フレームワーク関数を使用すると、ソースコードを変更せずに Solaris Security Toolkit ソフトウェアの動作を柔軟に変更することができます。</p>
拡張機能説明	<p>注 - このソフトウェアの監査関数には、プライベートとパブリックの 2 種類があります。audit_private.funcs ファイルで定義されている関数はプライベートであるため、パブリックには使用できません。このファイルで定義されているプライベートスクリプトは使用しないでください。audit_public.funcs ファイルで定義されているパブリックスクリプトだけを使用してください。</p> <p>監査関数を監査スクリプトの一部として使用し、システムに格納されている構成と実行時構成のコンポーネントを評価します。次の関数は、Solaris Security Toolkit ソフトウェアの監査フレームワークに対するパブリックインタフェースです。</p> <p>監査スクリプトをカスタマイズまたは作成する場合は、次の関数を使用して標準の操作を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ check_fileContentsExist と check_fileContentsNotExist ■ check_fileExists と check_fileNotExists ■ check_fileGroupMatch と check_fileGroupNoMatch ■ check_fileModeMatch と check_fileModeNoMatch ■ check_fileOwnerMatch と check_fileOwnerNoMatch ■ check_fileTemplate ■ check_fileTypeMatch と check_fileTypeNoMatch ■ check_if_crontab_entry_present ■ check_keyword_value_pair ■ check_minimized ■ check_minimized_service ■ check_packageExists と check_packageNotExists ■ check_patchExists と check_patchNotExists

- check_processArgsMatch と check_processArgsNoMatch
- check_processExists と check_processNotExists
- check_serviceConfigExists と check_serviceConfigNotExists
- check_serviceDisabled と check_serviceEnabled
- check_serviceInstalled と check_serviceNotInstalled
- check_serviceOptionDisabled と check_serviceOptionEnabled
- check_servicePropDisabled
- check_serviceRunning と check_serviceNotRunning
- check_startScriptExists と check_startScriptNotExists
- check_stopScriptExists と check_stopScriptNotExists
- check_userLocked と check_userNotLocked
- finish_audit
- get_cmdFromService
- start_audit

上記関数の使用方法の詳細については、『Solaris Security Toolkit 4.2 リファレンスマニュアル』の「フレームワーク関数」の章を参照してください。

使用例

- 例 1 ファイルの存在の確認
- ```
check_fileExists /etc/inet/inetd.conf 1 LOG
```
- 例 2            パッケージの存在の確認
- ```
check_packageExists SUNWsshdu 1 LOG
```

属性

次の属性の説明については、**attributes** (5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Stability	Unstable

関連項目

- add-client** (1M)
- common_log_funcs** (4)
- common_misc_funcs** (4)
- driver_public_funcs** (4)
- jass-check-sum** (1M)

jass-execute (1M)
make-jass-pkg (1M)
rm-client (1M)
security_drivers (7)



名前	<code>common_log_funcs</code> - <code>common_log_funcs</code> ファイルにあるすべての共通ログ関数の一覧を示します。
形式	<code>common_log_funcs</code>
説明	<p>すべてのログ関数とレポート関数は <code>Drivers</code> ディレクトリの <code>common_log_funcs</code> ファイルに格納されています。ログ関数とレポート関数は、Solaris Security Toolkit ソフトウェアのすべての操作モードで使用されるため、共通関数と見なされます。たとえば、このファイルには <code>logWarning</code> や <code>logError</code> などの関数が含まれています。</p> <p>フレームワーク関数を使用すると、ソースコードを変更せずに Solaris Security Toolkit ソフトウェアの動作を柔軟に変更することができます。</p>
拡張機能説明	<p>以下に共通ログ関数のリストを示します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ <code>logBanner</code>■ <code>logDebug</code>■ <code>logError</code>■ <code>logFailure</code>■ <code>logFileContentsExist</code> と <code>logFileContentsNotExist</code>■ <code>logFileExists</code> と <code>logFileNotExists</code>■ <code>logFileGroupMatch</code> と <code>logFileGroupNoMatch</code>■ <code>logFileModeMatch</code> と <code>logFileModeNoMatch</code>■ <code>logFileNotFound</code>■ <code>logFileOwnerMatch</code> と <code>logFileOwnerNoMatch</code>■ <code>logFileTypeMatch</code> と <code>logFileTypeNoMatch</code>■ <code>logFinding</code>■ <code>logFormattedMessage</code>■ <code>logInvalidDisableMode</code>■ <code>logInvalidOSRevision</code>■ <code>logMessage</code>■ <code>logNotGlobalZone</code>■ <code>logNotice</code>■ <code>logPackageExists</code> と <code>logPackageNotExists</code>■ <code>logPatchExists</code> と <code>logPatchNotExists</code>■ <code>logProcessArgsMatch</code> と <code>logProcessArgsNoMatch</code>■ <code>logProcessExists</code> と <code>logProcessNotExists</code>■ <code>logProcessNotFound</code>

- logScore
- logScriptFailure
- logServiceConfigExists と logServiceConfigNotExists
- logServiceDisabled と logServiceEnabled
- logServiceInstalled と logServiceNotInstalled
- logServiceOptionDisabled と logServiceOptionEnabled
- logServiceProcessList
- logServicePropDisabled と logServicePropEnabled
- logServiceRunning と logServiceNotRunning
- logStartScriptExists と logStartScriptNotExists
- logStopScriptExists と logStopScriptNotExists
- logSuccess
- logSummary
- logUndoBackupWarning
- logUserLocked と logUserNotLocked
- logWarning

上記関数の使用方法の詳細については、『Solaris Security Toolkit 4.2 リファレンスマニュアル』の「フレームワーク関数」の章を参照してください。

使用例

例 1 ログ失敗のログ記録

```
Usage:
logFailure "Package SUNWatsfr is installed."
Output:
[FAIL] Package SUNWatsfr is installed.
```

例 2 ログファイルの存在のログ記録

```
Usage:
logFileExists /etc/issue
Output:
[NOTE] File /etc/issue was found.
```

属性

次の属性の説明については、**attributes** (5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Stability	Unstable

関連項目

add-client (1M)
audit_public_funcs (4)
common_misc_funcs (4)
driver_public_funcs (4)
jass-check-sum (1M)
jass-execute (1M)
make-jass-pkg (1M)
rm-client (1M)
security_drivers (7)



名前	<code>common_misc_funcs</code> - <code>common_misc_funcs</code> ファイルにあるさまざまなフレームワーク関数に一覧を表示します。						
形式	<code>common_misc_funcs</code>						
説明	<p>さまざまな関数は、Solaris Security Toolkit ソフトウェアのいくつかの領域内で使用され、そのほかのフレームワーク関数が提供する機能に特化したものではありません。これらのさまざまな関数は、Drivers ディレクトリの <code>common_misc_funcs</code> ファイルに格納されています。このファイルには、<code>isNumeric</code> や <code>printPretty</code> などの共通ユーティリティ関数が含まれています。</p> <p>フレームワーク関数を使用すると、ソースコードを変更せずに Solaris Security Toolkit ソフトウェアの動作を柔軟に変更することができます。</p>						
拡張機能説明	<p>以下に共通のいろいろな関数のリストを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>adjustScore</code> ■ <code>checkLogStatus</code> ■ <code>clean_path</code> ■ <code>extractComments</code> ■ <code>get_driver_report</code> ■ <code>get_lists_conjunction</code> ■ <code>get_lists_disjunction</code> ■ <code>invalidVulnVal</code> ■ <code>isNumeric</code> ■ <code>printPretty</code> ■ <code>printPrettyPath</code> ■ <code>strip_path</code> <p>上記関数の使用方法の詳細については、『Solaris Security Toolkit 4.2 リファレンスマニュアル』の「フレームワーク関数」の章を参照してください。</p>						
属性	<p>次の属性の説明については、<code>attributes</code> (5) を参照してください。</p> <table border="1" data-bbox="381 1263 1355 1428"> <thead> <tr> <th>属性タイプ</th> <th>属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWjass</td> </tr> <tr> <td>Stability</td> <td>Unstable</td> </tr> </tbody> </table>	属性タイプ	属性値	Availability	SUNWjass	Stability	Unstable
属性タイプ	属性値						
Availability	SUNWjass						
Stability	Unstable						
関連項目	<p><code>add-client</code> (1M)</p> <p><code>audit_public_funcs</code> (1M)</p>						

common_log_funcs (4)
driver_public_funcs (4)
jass-check-sum (4)
jass-execute (1M)
make-jass-pkg (1M)
rm-client (1M)
security_drivers (7)

名前	<code>driver_public_funcs</code> - <code>driver_public_funcs</code> ファイルにあるドライバ関数の一覧を示します。
形式	<code>driver_public_funcs</code>
説明	Solaris Security Toolkit ドライバ機能を制御するすべての関数は、 <code>driver_public_funcs</code> ファイルの <code>Drivers</code> ディレクトリにあります。このファイルには、 <code>add_pkg</code> や <code>copy_a_file</code> などの関数が含まれています。
拡張機能説明	<p>スクリプトをカスタマイズまたは作成する場合は、次の関数を使用して標準の操作を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none">■ <code>add_crontab_entry_if_missing</code>■ <code>add_option_to_ftpd_property</code>■ <code>add_patch</code>■ <code>add_pkg</code>■ <code>add_to_manifest</code>■ <code>backup_file</code>■ <code>backup_file_in_safe_directory</code>■ <code>change_group</code>■ <code>change_mode</code>■ <code>change_owner</code>■ <code>check_and_log_change_needed</code>■ <code>check_os_min_version</code>■ <code>check_os_revision</code>■ <code>check_readOnlyMounted</code>■ <code>checksum</code>■ <code>convert_inetd_service_to_fmri</code>■ <code>copy_a_dir</code>■ <code>copy_a_file</code>■ <code>copy_a_symlink</code>■ <code>copy_files</code>■ <code>create_a_file</code>■ <code>create_file_timestamp</code>■ <code>disable_conf_file</code>■ <code>disable_file</code>■ <code>disable_rc_file</code>■ <code>disable_service</code>

- enable_service
- find_sst_run_with
- get_expanded_file_name
- get_stored_keyword_val
- get_users_with_retries_set
- is_patch_applied と is_patch_not_applied
- is_service_enabled
- is_service_installed
- is_service_running
- is_user_account_extant
- is_user_account_locked
- is_user_account_login_not_set
- is_user_account_passworded
- lock_user_account
- make_link
- mkdir_dashp
- move_a_file
- rm_pkg
- set_service_property_value
- set_stored_keyword_val
- unlock_user_account
- update_inetcon_in_upgrade
- warn_on_default_files
- write_val_to_file

上記関数の使用方法の詳細については、『Solaris Security Toolkit 4.2 リファレンスマニュアル』の第2章「フレームワーク関数」を参照してください。

使用例

例1 単一パッチの追加

```
add_patch 123456-01
```

例2 パッチリストの追加

```
add_patch -M ${JASS_PATCH_DIR}/OtherPatches patch_list.txt
```

属性 | 次の属性の説明については、**attributes** (5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass

関連項目

- add-client** (1M)
- audit_public_funcs** (4)
- common_log_funcs** (4)
- common_misc_funcs** (4)
- jass-check-sum** (1M)
- jass-execute** (1M)
- make-jass-pkg** (1M)
- rm-client** (1M)
- security_drivers** (7)



名前	jass-check-sum - Security Toolkit の最後のセキュリティー強化以降に行われたファイルの変更を特定します。									
形式	jass-check-sum									
説明	<p>この Solaris Security Toolkit スクリプトは、ファイルのチェックサムが最後に JASS_REPOSITORY (/var/opt/SUNWjass/run/*/jass-checksums.txt) に保存されてから変更があったファイルを特定します。</p> <p>ファイルの最新のチェックサムを現在のファイルと比較するだけです。これにより、ファイルが Solaris Security Toolkit によって設定された後で変更されたかどうかを判断できます。該当する設定がすでに元に戻されている場合は、その設定はスキップされます。</p>									
拡張機能説明										
必要なグループ特権	このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。									
オプション	なし。									
使用例	<p>例 1 Solaris Security Toolkit ファイルのチェック</p> <pre>sc0: #:> /opt/SUNWjass/bin/jass-check-sum</pre> <p>Checking for file signature conflicts associated with Toolkit run: 20040621172054</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>File Name</th> <th>Saved CkSum</th> <th>Current CkSum</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>/etc/passwd</td> <td>685593234:456</td> <td>1703916610:489</td> </tr> <tr> <td>/etc/shadow</td> <td>3216256103:185</td> <td>3154547236:190</td> </tr> </tbody> </table> <pre>sc0: #:></pre>	File Name	Saved CkSum	Current CkSum	/etc/passwd	685593234:456	1703916610:489	/etc/shadow	3216256103:185	3154547236:190
File Name	Saved CkSum	Current CkSum								
/etc/passwd	685593234:456	1703916610:489								
/etc/shadow	3216256103:185	3154547236:190								
終了ステータス	<p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常終了。</p> <p>1 エラーが発生しました。</p>									
ファイル	<p>このコマンドでは次の JASS_REPOSITORY ファイルが使用されます。</p> <pre>/var/opt/SUNWjass/run/run-id/jass-checksums.txt</pre> <p>テスト対象ファイルと比較されるファイルのリストが含まれます。</p>									

属性 | 次の属性の説明については、**attributes** (5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Interface Stability	Evolving

関連項目

add-client (1M)
audit_public_funcs (4)
common_log_funcs (4)
common_misc_funcs (4)
driver_public_funcs (4)
jass-execute (1M)
make-jass-pkg (1M)
rm-client (1M)

名前	jass-execute - Solaris Security Toolkit の機能を実行します。
形式	<pre> jass-execute [-r root_directory -p os_version] [-q -o output_file] [-m e-mail_address] [-V [3 4]] [-d driver] jass-execute -u [-b -f -k] [-q -o output_file] [-m e-mail_address] [-V [3 4]] jass-execute -a driver [-V [0 1 2 3 4]] [-q -o output_file] [-m e-mail_address] jass-execute -c [-q -o output_file] [-m e-mail_address] [-V [3 4]] jass-execute -H jass-execute -l jass-execute -h -? jass-execute -v </pre>
説明	<p>jass-execute は、使用されているオプションに応じて Solaris Security Toolkit (JASS と呼ばれる) のさまざまな機能を実行します。jass-execute コマンドとそのさまざまなオプションの使用法の詳細は、『Solaris Security Toolkit 4.2 管理マニュアル』の第 3 章「セキュリティーソフトウェアのアップグレード、インストール、および実行」を参照してください。</p>
拡張機能説明	<p>jass-execute コマンドの -a および -d オプションを使用してドライバを指定する必要があります。ドライバは、Solaris OS システムを強化、最小化、および監査するために、Solaris Security Toolkit ソフトウェアで使用されます。一連のドライバと関連ファイルによって、セキュリティープロファイルが構成されます。</p> <p>Drivers ディレクトリには、デフォルトで次の標準的なドライバが用意されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [secure hardening config].driver <p>次の製品固有のドライバは、特定の Sun 製品やその構成のセキュリティー強化に使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ server-[secure hardening config].driver ■ suncluster3x-[secure hardening config].driver ■ sunfire_15k_sc-[secure hardening config].driver <p>注 - [name]-secure.driver は、jass-execute コマンドに対する引数としてのみ使用します。</p> <p>ドライバの詳細については、『Solaris Security Toolkit 4.2 リファレンスマニュアル』の第 4 章「ドライバ」を参照してください。</p>

必要なグループ特
権

このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。

オプション

次のオプションがサポートされています。

- a *driver* システムがセキュリティープロファイルに適合しているかどうかを判断します。

-c、-d、-h、-H、-l、-p、-r、または -u オプションと一緒に使用しないでください。
- b 前回の強化後に手動で変更されたファイルをバックアップした後、システムを元の状態に復元します。

-u オプションのみと一緒に使用します。
- c クリーンオプションを指定します。Solaris Security Toolkit の前回実行時からの保存ファイルを削除します。
- d *driver* スタンドアロンモードで実行されるドライバを指定します。

-a、-b、-c、-f、-h、-H、-k、または -u オプションと一緒に使用しないでください。
- f 強化後に手動でファイルが変更されていても、強化中に行われた変更を強制的にリセットします。

-u オプションのみと一緒に使用します。
- H システム上の Solaris Security Toolkit アプリケーションの履歴を表示します。
- h | -? jass-execute の使用方法を表示します。

単一で使用します。-h | -? に追加で指定されたオプションは無視されます。
- k 強化後にファイルに手動で行われた変更を保持します。

-u オプションのみと一緒に使用します。
- l 最後にシステムにインストールされた Solaris Security Toolkit アプリケーションを表示します。
- m *e-mail_address* 社内サポートに使用する電子メールアドレスを指定します。
- o *output_file* 出力ファイルそれ自体だけでなく、出力ファイルへの完全パスを指定します。

- p os_version* Solaris の OS バージョンを指定します。形式は `uname -r` と同じです。
- r root_directory* オプションと一緒に使用しなければなりません。
- q* 非出力モードを指定します。このコマンドの実行中、メッセージは表示されません。出力は `JASS_REPOSITORY/` に格納されます。
- r root_directory* `jass-execute` の実行中に使用されるルートディレクトリを指定します。デフォルトでは、ルートファイルシステムは `/` です。このルートディレクトリは **Solaris Security Toolkit** 環境変数 `JASS_ROOT_DIR` で定義されます。セキュリティ強化の対象の Solaris OS は `/` を介して指定できます。たとえば、別の OS ディレクトリのセキュリティを強化する場合は、一時的に `/mnt` にマウントし、*-r* オプションで `/mnt` を指定します。
- p os_version* オプションと一緒に使用しなければなりません。

- u 例外が発生したとき、希望のアクションを入力するようにプロンプトで要求して、操作を元に戻します。
- a、-c、-d、-h、-l、または -H オプションと一緒に使用しないでください。
- V *verbosity_level* 監査の詳細レベルを指定します。次の 5 つの詳細レベル (0 ~ 4) があります。
- 0 最終モード。このモードでは、検証全体の総合結果を示す 1 行のみの出力が生成されます。PASS または FAIL の結果だけが必要な場合に、このモードは便利です。
 - 1 統合モード。このモードでは、各監査スクリプトごとに、その結果を示す 1 行の出力が生成されます。また、監査終了時にスコアの総合計が生成されるだけでなく、各スクリプトの終了時にもスコアの小計が生成されます。
 - 2 要約モード。このモードは、統合詳細レベルの内容に、各監査スクリプト内の個々のチェックの結果を組み合わせたモードです。1 つの監査スクリプト内で成功したチェックと失敗したチェックを即座に判定する場合に、このモードは便利です。このモードの形式も、1 行に 1 つの結果が表示されます。
 - 3 完全モード。初めての複数行詳細モードです。このモードでは、実行されているチェック、そのチェックの目的、および結果の判定方法がもっとよくわかるように、バナーとヘッダが出力されます。このモードはデフォルトの詳細レベルで、Solaris Security Toolkit の検証機能を初めて使用するユーザーに適しています。
 - 4 デバッグモード。このモードは、完全詳細モードを拡張したモードで、logDebug ログ関数によって生成される項目がすべて含まれます。現在、このモードは Solaris Security Toolkit 監査スクリプトでは使用されていませんが、完全を期すためと、管理者がコード内部にデバッグ文を埋めこめるように用意されています。
- v このプログラムのバージョン情報を表示します。

使用例

例 1 Solaris Security Toolkit アプリケーションの構成

```
sc0:#:> /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -r /mnt -p 5.9 -o
output.txt -m support@mycompany.com -d secure.driver
```

```
[NOTE] The following prompt can be disabled by setting JASS_NOVICE_USER
to 0.
```

```
[WARN] Depending on how the Solaris Security Toolkit is configured, it is
both possible and likely that by default all remote shell and file transfer
access to this system will be disabled upon reboot effectively locking out
any user without console access to the system.
```

```
Are you sure that you want to continue? (YES/NO) [NO] YES
```

```
[NOTE] Executing driver, secure.driver
```

```
[NOTE] Recording output to output.txt
```

```
sc0:#:>
```

例 2 以前の Jass アプリケーションを元に戻す

```
sc0:#:> /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -u -b -q -m
support@mycompany.com -V 3
```

```
[WARN] Creating backup copies of some files may cause unintended affects.
```

```
[WARN] This is particularly true of /etc/hostname.[interface] files as
well as crontab files in /var/spool/cron/crontabs.
```

```
[NOTE] Executing driver, undo.driver
```

```
Please select a Solaris Security Toolkit run to restore through:
```

```
1. June 28, 2004 at 19:11:49 (/var/opt/SUNWjass/run/20040628191149)
```

```
2. June 21, 2004 at 17:20:54 (/var/opt/SUNWjass/run/20040621172054)
```

```
3. June 17, 2004 at 10:45:23 (/var/opt/SUNWjass/run/20040617104523)
```

```
Choice ('q' to exit)? 1
```

```
[NOTE] Restoring to previous run from /var/opt/SUNWjass/run/
20040628191149
```

```
sc0:#:>
```

例 3 定義済みプロファイルに対するシステムの監査

```
sc0:#:> /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -a secure.driver -V 2 -o
output.txt -m support@mycompany.com
```

```
jass-execute [NOTE] Executing driver, secure.driver
```

```
jass-execute [NOTE] Recording output to output.txt
```

```
sc0:#:>
```

例 4 最後にインストールされた Solaris Security Toolkit アプリケーションの表示

```
sc0:#:> /opt/SUNWjass/bin/jass-execute -l
```

```
# ./jass-execute -l
```

```
This information is only applicable for applications of the
Solaris Security Toolkit starting with version 0.3.
```

```
The last application of the Solaris Security Toolkit was:
```

```
1. June 28, 2004 at 19:11:49 (20040628191149) (UNDONE)
```

```
sc0:#:>
```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

- 0 正常終了。
- 1 エラーが発生しました。
- 2 セキュリティー違反が発生しました。
- 3 **jass-execute** の別のインスタンスが実行中です。
- 4 ユーザー要求による終了。

属性

次の属性の説明については、**attributes** (5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Interface Stability	Evolving

関連項目

add-client (1M)

jass-check-sum (1M)

make-jass-pkg (1M)

rm-client (1M)

名前	make-jass-pkg - Solaris Security Toolkit (JASS) パッケージストリームファイルを作成します。
形式	make-jass-pkg [-b <i>new-base-dir</i>] [-e <i>excl-list</i>] [-m <i>new-email-address</i>] [-p <i>package-name</i>] [-q] [-t <i>new-title</i>] make-jass-pkg -v make-jass-pkg -? -h
説明	make-jass-pkg コマンドは、Solaris Security Toolkit から Solaris パッケージストリームファイルを作成します。作成されたファイルは、pkgadd コマンドを使用してインストールし、pkgrm コマンドを使用して削除することができます。インストールされたファイルに関する情報は、pkginfo コマンドを使用すると取得できます。
拡張機能説明	
必要なグループ特権	このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。
オプション	次のオプションがサポートされています。 -b <i>new-base-dir</i> 代替インストールベースディレクトリを指定します。 -e <i>excl-list</i> パッケージから最上位ファイルまたはディレクトリを除外します。a b c dのように、リストをパイプ () で区切って指定します。 -h -? 使用方法を表示します。 単一で使用します。-h または -? に追加で指定されたオプションは無視されます。 -m <i>new-email-address</i> 社内サポートに使用する電子メールアドレスを指定します。 -p <i>package-name</i> カスタムパッケージ名を指定します。デフォルトは JASScustm です。 -q 非出力モードを指定します。このコマンドの実行時は、メッセージは表示されません。 -t <i>new-title</i> 新しいパッケージタイトルを指定します。デフォルトのタイトルは「Solaris Security Toolkit」です。 -v このプログラムのバージョン情報を表示します。

使用例

例 1 デフォルトを使用したパッケージストリームファイルの作成

```
sc0: #:> /opt/SUNWjass/bin/make-jass-pkg

[NOTE] Creating the package's prototype file. This may take a few minutes.
[NOTE] Excluded file: ./jass-include-list.tmp
[NOTE] Creating the package's info file.
[NOTE] Creating the package in a scratch directory.
## Building pkgmap from package prototype file.
## Processing pkginfo file.
WARNING: parameter <PSTAMP> set to "eng120040623143146"
WARNING: parameter <CLASSES> set to "none"
## Attempting to volumize 360 entries in pkgmap.
part 1 -- 2934 blocks, 357 entries
## Packaging one part.
/opt/SUNWjass/SUNWjass/pkgmap
/opt/SUNWjass/SUNWjass/pkginfo
.
.[list of files...]
.
/opt/SUNWjass/SUNWjass/reloc/rules.SAMPLE
/opt/SUNWjass/SUNWjass/install/tsolininfo
## Validating control scripts.
## Packaging complete.
[NOTE] Creating the package's stream format (package file).
The following packages are available:
  1 JASScustm Solaris Security Toolkit 4.1.0
    (Solaris) 4.1.0
Select package(s) you wish to process (or 'all' to process
all packages). (default: all) [?,??,q]: Transferring <JASScustm> package
instance
[NOTE] The package has been created as JASScustm.pkg.
sc0: #:>
```

例 2 パッケージストリームファイルの作成とオプションの指定

```

sc0: #:> /opt/SUNWjass/bin/make-jass-pkg -b /opt/SUNWjass/otherdir -e /
opt/SUNWjass/test -m eng_support@mycompany.com -p MYJASS -t MyToolkit

[NOTE] Creating the package's prototype file. This may take a few
minutes.
[NOTE] Creating the package's info file.
[NOTE] Creating the package in a scratch directory.
## Building pkgmap from package prototype file.
## Processing pkginfo file.
WARNING: parameter <PSTAMP> set to "eng120040623150621"
WARNING: parameter <CLASSES> set to "none"
## Attempting to volumize 363 entries in pkgmap.
part 1 -- 5612 blocks, 359 entries
## Packaging one part.
/opt/SUNWjass/SUNWjass/pkgmap
/opt/SUNWjass/SUNWjass/pkginfo
.
.
.[list of files]
/opt/SUNWjass/SUNWjass/reloc/rules.SAMPLE
/opt/SUNWjass/SUNWjass/install/tsolinfo
## Validating control scripts.
## Packaging complete.
[NOTE] Creating the package's stream format (package file).
The following packages are available:
  1 MYJASS Solaris Security Toolkit 4.1.0 / MyToolkit
    (Solaris) 4.1.0
Select package(s) you wish to process (or 'all' to process
all packages). (default: all) [?,??,q]: Transferring <MYJASS> package
instance
[NOTE] The package has been created as MYJASS.pkg.
sc0: #:>

```

終了ステータス

次の終了値が返されます。

```

0          正常終了。
1          エラーが発生しました。

```

属性

次の属性の説明については、**attributes**(5) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Interface Stability	Evolving

関連項目

```

add-client (1M)
jass-check-sum (1M)
jass-execute (1M)

```

rm-client (1M)

名前	rm-client - Solaris Security Toolkit の JumpStart クライアントを削除します。
形式	rm-client [-c] client-host-name rm-client -? -h rm-client -v
説明	rm-client は、Solaris Security Toolkit がインストールされている JumpStart サーバーからの JumpStart クライアントの削除を容易にします。rm-client コマンドは rm_install_client スクリプトのラッパーで、Solaris Security Toolkit 配布パッケージの bin ディレクトリにあります。
拡張機能説明	
必要なグループ特権	このコマンドを実行するには、スーパーユーザー特権が必要です。
オプション	次のオプションがサポートされています。 -c <i>client-host-name</i> インストールされていた JumpStart クライアントと、Solaris Security Toolkit で必要であった構成情報をすべて削除します。 -h -? 使用方法を表示します。 単一で使用します。-h または -? に追加で指定されたオプションは無視されます。 -v このプログラムのバージョン情報を表示します。
使用例	例 1 クライアントの削除 sc0: #:> /opt/SUNWjass/bin/rm-client -c eng1 removing eng1 from bootparams オプションを以下に示します。 eng1 削除するクライアントのホスト名
終了ステータス	次の終了値が返されます。 0 正常終了。 1 エラーが発生しました。

属性 | 次の属性の説明については、**attributes** (1M) を参照してください。

属性タイプ	属性値
Availability	SUNWjass
Interface Stability	Unstable

関連項目

add-client (1M)

jass-check-sum (1M)

jass-execute (1M)

make-jass-pkg (1M)

名前	security_drivers - security.drivers ファイルにある標準的な Solaris Security Toolkit ドライバを一覧します。						
形式	<p>secure.driver</p> <p>server-secure.driver</p> <p>suncluster3x-secure.driver</p> <p>sunfire_15k_sc-secure.driver</p>						
説明	security_drivers は、security.drivers ファイルにあり Solaris Security Toolkit で使用されるドライバのコレクションの一覧を示します。						
拡張説明	<p>次のリストで、標準的なドライバを簡単に説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ secure.driver は、クライアントのインストール用ルールで使用されるデフォルトのドライバです。すべての強化機能を実装します。 ■ desktop-secure.driver は、secure.driver に基づいて、サーバーシステムのセキュリティ確保に必要なものを明確に示します。 ■ suncluster3x-secure.driver は、Sun™ Cluster 3.x ソフトウェアリリースを強化するベースライン構成を提供します。 ■ sunfire_15k_sc-secure.driver は、Sun Fire ハイエンドシステムコントローラのセキュリティを確保するためにサポートされている唯一のメカニズムです。 <p>上記ドライバの使用方法の詳細については、『Solaris Security Toolkit 4.2 リファレンスマニュアル』の第 4 章「ドライバ」を参照してください。</p>						
使用例	<p>例 1 secure.driver ファイルの内容</p> <pre>DIR="/bin/dirname \$0`" export DIR . \${DIR}/driver.init . \${DIR}/config.driver . \${DIR}/hardening.driver</pre>						
属性	<p>次の属性の説明については、attributes (5) を参照してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">属性タイプ</th> <th style="text-align: center;">属性値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Availability</td> <td>SUNWjass</td> </tr> <tr> <td>Stability</td> <td>Unstable</td> </tr> </tbody> </table>	属性タイプ	属性値	Availability	SUNWjass	Stability	Unstable
属性タイプ	属性値						
Availability	SUNWjass						
Stability	Unstable						

関連項目

add-client (1M)
audit_public_funcs (4)
common_log_funcs (4)
common_misc_funcs (4)
driver_public_funcs (4)
jass-check-sum (1M)
jass-execute (1M)
make-jass-pkg (1M)
rm-client (1M)